

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05220	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和2(2020)年度
研究課題名	蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究	研究代表者 (所属・職)  (平成31年4月現在)	池田 栄史  (琉球大学・国際地域創造学部・教授)

【令和元(2019)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、蒙古来襲沈没船の海底における保存手法の確立、沈没船に関する情報公開方法の確立、引き揚げを前提とした大型木材の保存処理手法の確立という3点を目的としている。</p> <p>第1点の保存手法については計画どおりに進捗しているが、モニタリングに時間がかかる点で、検証後の改善、あるいは代替案実施が研究期間中に達成できるかやや危惧されるため、十分な準備が必要となる。第2点に関しては、映像コンテンツの素材を完成させ、また自治体との連携の下での公開が謳われるなど、ほぼ順調な進捗であると判断する。第3点については、保存処理手法についての見通しが得られているものの、自治体側の受け入れ態勢の遅れから、いまだに検証が進んでいないように見えることから、迅速に計画を進める必要がある。</p>	